

琉球大学学術リポジトリ

琉球語による朝鮮の占書 －吉浜智改の『行年運琉訳』－

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2012-12-21 キーワード (Ja): 占い, 土亭秘訣, 靈籤, 吉浜智改, 琉球語 キーワード (En): 作成者: 山里, 純一, Yamazato, Junichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25515

琉球語による朝鮮の占書 — 吉浜智改の『行年運琉訳』 —

山 里 純 一
Junichi Yamazato

A Korean Book of Fortune-Telling Translated into Ryukyuan:
Konen-un Ryuyaku by YOSHIHAMA Chikai

久米島出身の吉浜智改は、朝鮮の通書『諺文家庭宝鑑』に記された「土亭行年法」という占いテキストを自ら琉球語による解説を施し、運勢判断に利用していた。『行年運琉訳』と名づけられたその資料は、朝鮮語によって書かれた「土亭行年法」の単なる翻訳本ではない。そこには当時の沖縄の風習や、筆者自身巧みな言語表現がみられる。また沖縄における朝鮮の占い文化受容の実態を知る上でも興味深い資料である。

キーワード：占い 土亭秘訣 靈籤 吉浜智改 琉球語

1. 朝鮮占法の伝来と利用

李氏朝鮮時代の16世紀に李之函が書いた『土亭秘訣』（土亭は雅号）という占術書がある。現代の韓国では、新年を迎えるとこの本を買い求め、家族の一年間の運勢判断を行うことが歳時風習となっているようである。

朝鮮のこうした占法を初めて沖縄に持ち込んだのは、久米島出身の吉浜智改（1885 - 1956）である。彼は、1905（明治38）に兵役に服し、1907年（明治40）に韓国憲兵隊の予後備役憲兵下士上等兵に応募して韓国に渡り、1910年（明治43）の韓国併合および朝鮮総督府設置を前に憲兵警察制度が設けられると、陸軍憲兵軍曹から朝鮮総督府警部となり、七ヶ年勤務した後、1914

年（大正3）に帰国する。その後、1916年（大正5）に妻子を連れて「鉱業に従事するため」再び韓国に渡り、平安道亀城で生活を始めるが、1919年（大正8）に三・一運動が起こり、結局事業に失敗し帰郷している。しかし大正15年（昭和元年）頃にもしばしば出かけている。このように数度に及ぶ韓国滞在中に恐らく入手したと思われるが、全文ハングルで書かれた『諺文家庭宝鑑』を持ち帰っている。『諺文家庭宝鑑』とは、生活便利情報やさまざまな占い方法が記された、いわば朝鮮の通書である。その中に「土亭行年法」という項目があり、智改はこれを元に、琉球語による行年運の占いテキストを作成している。当初のものは、「行年運 看数法」という見出しで、無題の冊子（仮題『暦書・呪符・靈籤』、久米島博物館所蔵「吉浜家文書」）に収められている（以下、初稿と称す）。文章の至るところペンや鉛筆による加除修正の跡が残るが、ある卦の箇所に、「十五年五月十二日午前三時占」との書き込みがあり、実際にそれによって占いが行われていたことがわかる。「十五年」とあるのは、その書き込み記事を見る限り、大正15年ではなく、昭和15年と思われることから、作成された時期は昭和になってからの可能性が高い。その後、1954年（昭和29）には『行年運琉訳』と題する改訂版が作成されている。縦25・6センチ、横17・6センチの罫紙に書かれ、袋綴じに装丁されたこの冊子の表表紙には、中央に表題の「行年運琉訳」、その右に「一九五四年（朝鮮文）」、左下に「吉濱鷄林」が墨書されている。1954年は、智改が死去する2年前であるが、『行年運琉訳』にも卦の上部余白に「智改元旦占」とか数人の個人名が書かれている。（朝鮮文）とは原本がハングルで書かれていて、本冊子はその琉球語訳であることを示す。吉濱鷄林の鷄林は朝鮮の異称で、吉浜智改はこの語を雅称としていた。

2. 看数法

本占法は、上・中・下の三卦を一つの卦として占うものである。『諺文家庭宝鑑』に収められた「土亭行年法」には、「当年身数吉凶占方上中下卦」

として次のようにある(翻訳は金東善氏)。

先ず、年齢数に当年の太歳数を足し八で割り余った数字を上卦とする。
次に、生まれた月の月建数とその月の大小数(大であれば30を、小であれば29)を足して6で割り余った数字を中卦とする。次に、生まれた日の数(1日であれば1を、30日であれば即ち30)にその日辰数を加え3で割りその余った数字をした下卦とする。

○更に上中下卦を取って一卦を作る。

天干数	甲己	乙庚	丙辛	丁壬	戊癸	
	十	九	八	七	六	
大歳数	巳午	寅卯	亥子	申酉	辰戌	丑未
	八	九	十	十一	十二	十二
月建数	子午	丑未	寅申	卯酉	辰戌	巳戌
	八	七	六	五	四	三
日辰数	巳午	寅卯	亥子	申酉	辰戌	丑未
	六	七	八	九	十	十

○天干太歳月建日辰に通用するにはこれを見よ。

甲己之年は丙寅が頭　乙庚之年は戊寅が頭

丙辛之年は庚寅が頭　丁壬之年は壬寅が頭

戊癸之年は甲寅が頭　甲己夜半生まれは甲子

乙庚夜半生まれは丙子　丙辛夜半生まれは戊子

丁壬夜半生まれは庚子　戊癸夜半生まれは壬子

一方、『行年運琉訳』では、「行年運 看数法」として次のように記されている。

○年は、占人の年数と占年の干支数を合し、8払にし残数を百位に。

○月は、大月は30小月は29に其月の干支数を加へ6払にし残数を十位に。

○日は、10日なれば10に、其日の干支を加へ3払にし、残数を單位に看る。

※暦ニヨリ其人ノ生レタル年月日干支ヲ見ルベシ (初稿に見ゆ)

天干数	大歳数	月建数	日辰数
甲 己 十	巳 午 八	子 午 八	巳 午 六
乙 庚 九	寅 卯 九	丑 未 七	寅 卯 七
丙 辛 八	亥 子 十	寅 申 六	亥 子 八
丁 壬 七	申 酉 十一	卯 酉 五	申 酉 九
戊 癸 六	辰 戌 十二	辰 戌 四	辰 戌 十
	丑 未 十二	巳 戌 三	丑 未 十

『行年運琉訳』では上・中・下卦を、百の位、十の位、一の位と呼称しているが、卦数の求め方はを全く同じである。但し年・月・日の卦を取って一卦とするという文言や、「甲己之年は丙寅が頭」以下「戊癸夜半生まれは壬子」の記事はない。

この行年運の「看数法」によって、例えば、当年70歳、生まれ月日が9月2日の被占者の甲午年（1954）の運勢判断を行う時の看数を求めると、次のようになる（年齢は満年齢、生まれた年の月日は陰暦）。

○年齢の70と、甲午の数18（甲の10+午の8）を合わせると88になる。

これを8で割ると残数は8（割り切れた場合）なので上卦は8。

○生まれ月すなわち9月の干支は丙戌であるから、その数12（丙の8+戌の4）と11月は小月であるから小月数29を合わせた41を6で割った残り5が中卦。

○生まれ日2日の2と、5日の干支は丁酉であるから、その数16（丁の7+酉の9）を合わせた18を3で割ると残数は3（割り切れた場合）なので下卦は3。

以上のようにして、上中下三卦を合わせて853の卦が得られることにな

る。

これから先は、一一一から八六三まで144の卦のうちから、得られた数(853)の卦に相当する卦辞を見て吉凶を判断するのである。

3. 卦名・卦象・卦辞

本占い本では、まず卦の名称があり、四言二句で示された卦辞、そして「此卦や」で始まる卦辞の解説文が書かれている。卦名・卦辞の部分は漢字であるが、『諺文家庭宝鑑』に収められた「土亭行年法」に見える解説の箇所は朝鮮語(ハングル)で書かれている。これに対して『行年運琉訳』および初稿では、解説の部分が琉球語で書かれている。「琉訳」というのは、このことを指している。しかしそれは単純な翻訳ではなく、吉浜智改自身による、沖縄の習俗を念頭に置いた巧みな言語表現力によってユニークな解義が示されている。

例えば最初の「一一一」の卦の解釈を比較してみよう。

(A) 「当年身数吉凶占法」(『諺文家庭宝鑑』所収)の翻訳

1 一一一 乾之姤

東風解氷 枯木逢春

この卦は東風が吹いて、氷が解け、枯れた木が春を迎えたという。財宝は人海に溢れ、事業は申酉の頃に成就するだろう。

但し四、五月には人々の口舌に注意すべし。

(B) 『行年運琉訳』

1 一一一 乾之姤

東風解氷 枯木逢春

此卦や 憂いを散じて喜び求めゆる卦

くれ迄や雪霜にウタリ枯木のチムエー 思いじや叶はらん 常にあア

あア 肝内や泣ちくらち居たるくとやしが 誠真実の神仏までん御感

動ミソーチ 寅卯の方青龍の神に助けられ 散りてウタル一門ん心打

ち合ち 旅に居しまでん引き寄シミセール みぐる縁の叶はて ナマ
からや 塞さち居たる胸内ん 春雪の解けゆる喜びの卦

又女元祖の嫡子求めて風水改め 7月8月からや思事叶はて 正月10
月にや財物の喜びのあん

やしが4・5月や僅かし口事のあらんりすくと たしなみ第一どう

【標準語訳】

此の卦は憂い散らして喜び求める卦

これまで雪霜に打たれて枯木の心のように、思いが叶わない。いつも
あーあーと心の中で泣き暮らしているが、誠に真実の神仏までもが感
動して、寅卯の方にいる青龍の神に助けられ、離散していた一門縁者
が心打ち合わせ、旅にある人までも引き寄せて下さった。回る縁が叶
い、これからは、塞ぎがちであった胸の内も春の雪解けの喜びの卦で
ある。

また女元祖も嫡子を期待して風水を改め、7月8月からは思う事も叶
い、正月と10月には財物の喜びがあるであろう。

しかし4・5月はいささか口事もあるやも知れないので、心がけが第一
である。

以上の、(A)の前半部分は(B)の下線部に相当するが、文才のある吉
浜智改によって文章がかなり肉付けされていることが知られよう。(B)の
「女元祖」に関する記述は(A)にはなく、沖縄の習慣を念頭に追加してい
る。(A)の「但し」以下に対応する(B)の「やしが」以下の文章は、そ
れこそ「琉訳」にふさわしい。

なお初稿についても、基本的には同じことが言える。

4. みくじ本への転用

『暦書・呪符・靈籤』（仮題）に見える初稿および『行年運琉訳』には、
上中下の三桁の卦の上には、やや太い字で通し番号が振られている。もちろ

んこの算用数字は、『土亭秘訣』にも『諺文家庭宝鑑』所収の「土亭行年法」にもなく、後から付けられたものようである。吉浜家には1～144の番号が書かれた竹（みくじ竹）とそれを入れる筒が残されていた（写真参照：現在は久米島博物館所蔵）ことから、『行年運琉訳』およびその初稿は、後に、靈籤すなわちみくじ本として利用されていたことが推察される。

吉浜智改は多彩な占法に関心を抱いており、当初は四柱推命が主な関心事であったが、第二次世界大戦後、易（断易）＝五行易による実占例を書き留めたノート類が目立って多くなる。『行年運琉訳』およびその初稿のみくじ本への転用は、こうした智改自身の変化の現れであろう。

靈籤（おみくじ）は、みくじ箱（筒）からみくじ竹（棒）を一本取り出し、それに書かれた籤番号を、①籤番、②吉凶ランク、③籤詩、④解釈が記されたみくじ本によって吉凶を知る方法である。籤詩の他に八言二句または四言二句の漢文を記したものもあり、漢詩および漢文を読み解くという点では、「土亭行年法」も同じである。

したがって、卦辞の解説文はそのまま生かしながら、生年月日による手間のかかる数占法から簡便な抽籤方式へ変更して利用したのである。

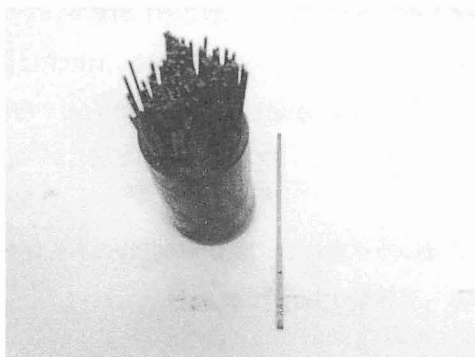


写真1. 144本のみくじ竹

5. 琉球語による卦辞解説

1 ◎一一一 乾之姤

東風解氷 枯木逢春

此卦や 憂い散じて喜び求めゆる卦

くれ迄や 雪霜にウタリ枯木のチムエー 思いじや叶はらん 常にあアアア

肝内や泣ちくらち居たるとやしが 誠真実の神仏までん御感動ミソーチ 寅卯の方青龍の神に助けられ 散りてウタル一門ん心打ち合ち 旅に居シまでん引き寄シミセール みぐる縁の叶はて ナマからや 塞さぢ 居たる胸内ん 春雪の解けゆる喜びの卦

又女元祖の嫡子求めて 風水改め 七月八月からや思事ん叶はて 正月十月にや財物の喜びのあん

やしが 四・五月や僅かし口事のあらんりすくと たしなみ第一どう

2 ◎一一二 乾之同人

望月円満 更有欠時

此卦や 物事相足りて 不自由やねらん 昔神御元祖の御威光^{ヒジ}に依ち 栄い取らさりたるくとやしが なまにしや 心^{ココロ}放るがしの卦

肝のまた^{マダ}[枝]のさきて イシズのくまいらん為めに 目の前に盗人の居しが ウリン知らん 近さに事破ぶゆしが居しが 之んわからん 口事の入らんりすしが アテーネーラン 諸イテムシにウズミ取らさりて居しが 心配の気のヨーサヌ カテームン

中元祖の世ウテ 妻ユウベ重ねて 離別事の苦様のある卦やれ 亥子辰午の方 屋敷の風払し 苦様祭りすしがまし

3 ◎一一三 乾之履

鶯棲柳枝 片々黄金

此卦や ^{ウ井}上上の引立て受け 立身の卦

遠さ 近さの縁の結びん アリトクリトの取合の道ん 叶はらんくとやねらん
世間に押し立まし立てられ 地物銭金ん 心のままに 儲け口の泉口求め 十
月十一月や口から宝の湧いる喜びのあん

之や亥子の方の神 又や二代別れ元祖の御恩やしに付て 軽くに思てやならん
亦六畜大功に助けたる陰徳のみぐいやしが 女事や慎み 殊に六月九月や 琴
瑟近かじかんしがまし

4 ◎一二一 履之訟

困碁消日 落子丁々

福德の身に副はて 立身發達の卦

やしが 業口の相変はて 余りふみらりる業やあらんしが むしや之れに心踏
み込みのツウクなてからや 身障はい取らねならんくと たしなみのありはどや
る

此卦や 親の世ウテ 盗人に恩カキタル為め 友人の^{ドシ}ちゃあに フミグイしみ
らりるか 物損じのあて 口事かからんりすくと 慎しみ肝要どう
又今度中や 女から恩受きてやならん 必ず口事のあんど

5 ◎一二二 履之無妄

画虎不成 反為狗子

此卦や 道バツペーの卦

他人の言葉に迷はされ 御元祖御念じ あぎいびちいむぬ ヌーンあらん 神
アガミシ ウカシムヌ 例れ此筋信じいびちむぬ ワチ道マサツトウるちむえ
ウリガ為めに、クマンリ思てセール事ノ アマナイ アマンリ思てセール事のク
マない 諸事成す事する事や ユガテ行ツン やれ肝心取り直ち 大道通ら

んどんあれ ウビラジニ 淵ニ落ていんどう 道見しゆる人や 近くにメンセー
クト 此人の意見に従て 大道通いどんセー 心配やねらん 思た事ん叶は
ていつん

6◎一二三 履之乾

雖曰箕箒 旧室尚存

此卦や 玉の箒ムッチ 古屋箒ツル チムエ
家内事や言ふに及ばん ウヌ事クヌ事 一チカラニチ片付きて 財物銭金 世
間事までん ウリ片付 クリ片付き 心労のツウサル卦
此生れや 常人に変わて 此家内の 昔から今までのかかイ マチブイから
神事元祖道 サバキテ行ツル様 生りて居しが ウリシイナチン クリシイナチ
ン ハテヌねらん 肝苦労取ツトウしが 今のヒョウシに 心ユルスナよ 手か
ら玉の箒放すなよ ハマテ働めりば この五・六月や 三方から宝取ゆる喜び
のあくと 北東の方 水性木性の人に近く交はて タシナミ取りわどやる

7◎一三一 同人之遯

老人対酌 酔睡泥々

此卦や 喜び重ねて一家繁昌の卦
やしが 世間の上ん トンケーて フージン見だねならん 第一酒色の道に 肝
ノ寸法^{ジンプ}ハジリてからや 道に踏み迷て 山奥に入らねならんくと たしなみ肝
要どう
此卦や 肝心 誠の神に助けられ 三月十月にや子孫に喜び 又財物銭金
嫁取婿取の喜び 重ね重ね かフウのあるくとやれ 肝心清めて 静かに時節
持て

8◎一三二 同人之乾

草緑江辺 郁々青々

此卦や 所がら場所からのユタサ 風水や誠の心に助けられ 殊に女の心
待ちの美らさ 誠に徳のみぐいやて 草木の緑り 榮ゆるアンペー 福の神や
門まで入り込で メンソウ チョウクト スーガヤ スーガヤ サングト 心清
めて御迎し 花の咲ち 打笑ゆる筋や 十・霜月の頃やくと 今迄の事や 露
程ん心にカキランぐと 西北ノ方 金性の人に近く交て喜び受けり

9◎一三三 同人无妄

雪満窮巷 孤松特立

此卦や 波風の強さる卦 イララン破目ミイに入ゆるチムエー意 世間受けのワルクなてく
れ風當いや強くなて ツイムンなゆるアンペ 肝と肝ナラン 自分ノ肝心恨みゆ
る節どう

夏の節や口事慎まんあれ 思た事ん手に取て 失なゆる運やれ 所変はい
業変はいんで くめ一きらんあれ 仕損じのあくと たしなみ第一どう

又今年中や 風かタかやねらんあくと 一本立んり思て 辛棒と念力ありわど
やる

10◎一四一 无妄之否

万頃滄波 一葉扁舟

此卦や 親グハサ子グハサの卦

親元祖の世ウテ 親子の和合取ららん 骨肉一つの親子どやしが 心や千里の
障でなて 一道通ららん為めに 家内事や思い叶らん 和睦失なて 大海の
中に迷て居る 浮小舟の心 寄る辺ねらん 心迷いそうる卦

たしなみのねんあれ この六月十月や 宝失なゆる みぐいやれ 慎しみ肝要
どう

11 ◎一四二 无妄之履

千人作之 年禄長久

此卦や 人に勝りて 智識才量並々やあらん 徳のあしに付て 世間ウマン人の心から アガミ立てゆるあんべ 今年や 福祿の神の集まいみせる年やくと 九月十月や思の外 木性の人に助けられ 喜び求め財物旺^サけゆる上上の運氣どう

又九月十月や 南西の方や 損じ事のあくと 約束商談事んで 慎み取ゆしがまし

12 ◎一四三 无妄之同人

夜雨行人 進退苦々

此卦や 明け雲の拝まらん卦

四代八代の世ウテ 一門に離れ族に別れて 渡世に迷ゆたる 因縁のみぐい年運の回いに當て ウレー行先ちの別らん苦しみの だんだん辛苦万勞シ例れ暗の夜に 雨風にイチャテ 途方失なとうるあんべー 慎しみのねんあれ 一門親類に離別事重ねて 悲しみの卦

やしが巳午の方 恩の神の御助のあくと 肝の願立ていどんセ クマの御助けに逢て 四月五月や思事叶はゆんやれ 御念じ あぎゆしがまし

13 ◎一五一 姤之乾

緑木求魚 事々多滞

此卦ヤ 山に登て魚ヲ求メ 海に下りて薪取ゆるあんべ ナサラン事や 止めゆしがまし

事の届きハヤ 能ク能ク胸に考へて 物事なさんあれ 胸フサチ取らさりて 苦しまねならんくと 考へりわどやる

やしが財物や求めらりしが 財物求めて 病難受けゆる卦やれ あまり財物にかかいしじらんぐと 夏秋の節や 専ら子孫育て方に 念入りはどやる

14 ◎一五二 妬之遯

火及棟樑 燕雀安知

此卦や 心勞事の目の前にある卦

之れ迄 人畜スイチムン棄禽に知ラシ取らち ウチエーしが ナリヒラナテ ウズミや取らん 又思み染みのねらん 親元祖や 余程御世話ミソウチ 安らかなーみソウラン 今年今年の四・五月十・霜月や 火の動ち 又妻子にサワイ事のあくと ユクユク心思みチクチ 東北の方ノ神掛けて 願望しどんセー 御助のさ あとん

15 ◎一五三 妬之訟

年雖値荒 飢者逢豊

此卦や 運数の足らん 年々哀り苦しみの 段々辛労重ねて 渡たてちやるくとやしが 思む事や叶はらん 至って哀りな卦

やしが今年や ガシ世続ちの物乞に 施しの徳のみぐて ナマ今からや儲けづくん 心のままに思い叶て 正月十月十一月十二月にや 思みゆらん 宝求めて喜ぶるみぐいやれ アキークリイしやならん

又四・五月に心ユルシドンセー 七・八月になて 口舌あるちむい たしなみ第一どう

16 ◎一六一 訟之履

春雨新霽 一枝梅花

此卦や 家内ウチに不和のあらんりする卦

財物のタメがやら 女事がやら 家内人数に口事のウフサ 和合の取ららんあしに付て 善い事やねらん 四・五月や 財物の出ザシ入り くめまらんあれウヌ為めに 家内や ンザリ山ナユクト ユクユク慎しまねならん

又此家内や 一家の治めづくに 親子夫婦の仲に 和談和合の花の開チどんせ 七・八月からや 銭金求めて喜び取ゆる卦

17 ◎一六二 訟之否

夏雲起処 魚龍浴水

此卦や 肝にフサムノや 神仏かキテ 願望サル^シ甲斐のあて やがて御仰の
現はりてツーン 夏雲のサガラバや 雨アグリト思ふな ウリが下からや 魚と
龍の遊ぶるか如く 僅かの災難事に 泣ち涙しやならん ウリが下からや 福
徳の備はい 子孫の繁昌スル喜び 取らさりみせーん 打笑て家内の福らさや
物に例ららん
やしが四五月の頃 東南の方や ユウシジユクト慎しみ

18 ◎一六三 訟之姤

秋扇停止 白露既降

此卦や 喜ぶんり思れ 悲しみのあい 楽しみんあれ 哀れ苦しみのみぐて
栄い衰いや 夏と冬心 ユイムドイムドイ 定^サだまてやウラン 此樂ゆスシン
此の哀りスシン 神や元祖の故やあらん 自分^{ドウ}の肝ど恨みゆるくとやしが 浮
世習はしの盛い衰るいに 肝ユ恨らみてんヌースガ 浮世恨らみてんヌースガ
欲徳ン忘れて 肝心シカチ 僅か人間の一世に 因縁^{インネン}作ラングト 心安々と渡
ゆしどましどう
此年や 財物と子孫に喜びのあしが 家内^{イナグヌチヤ}ノ婦人にサワイ事のあくど 慎し
み

19 ◎二一一 夬之大過

勤読夜檠 錦衣環郷

此卦や 成功立身之卦
勤みてあがらん事のみ ハマテ成さらん事のみ 勤みいどんセー 功のあ
る年やくと 成す事する事 実なてハマテ働らちどんせ やがて ウノ徳ノミゲ
テ^{ニシチ} 錦衣飾ザテ 故郷するしがた
冬の節からや 福祿備はて 十霜月にや 衆人万人から拝がまりる卦

20 ◎二一二 夬之革

金入煉炉 終成大器

此卦や 元祖世ウテ イシタル イシズの堅サヌ 今三代の世ウテ 必ず大成
功すんりの卦

昔言葉に 三代にして子孫を造るんりちやるチムエ 古金どやしが 鍛冶屋に
入りて錬チ直チ 立派な刃物造い 古る木とやしが 大工の取い直チ 立派な
道具物 造い立てたるあんべー

昔世にや 人にてイヤシミラリタル事んあしが 今の世ウテ 立派な子孫 造
い立てゆるためしやれ 物事や取い直し肝要どう 他人との仲ん世間 取イヒ
レーン 子孫ンザッ子に至る 取直ち育てり

十霜月からや 思事ん叶はて

21 ◎二一三 夬之兌

平地風波 驚人損財

此卦や 四方八方風がタカのネラン ンマカラン クマカラン 口事の入ゆる卦
例れ ユタ^{グチ}口信じて 元祖引分きるか 家内又や宝物 引ち分きゆるチムエー
アンナレー ナーワカイワカイ 心や散り散りになって クサーハネーから^{イナグングワ}娘女の
上に 口事聞かネならんくと 今の節や ユタ言聞くな 又世間甘口に乗てん
ならん

酉戌の方との約束事や 余り喜ばんしかまし 又財物損じ 子孫の上に心配事
のある年やれ 慎み肝要どう

22 ◎二二一 兌之困

不知安分 反有乖常

此卦や 自分^{ドウ}の分^フ の一知らねならんどう

及ばらん事や 傷^{キガ}かの元んりち 自分分計^{ドウメ}分^{ブン}計^{ハカ}らて 物事なさんあれ ドウクル求
めて 難事引チ受ケ 財物損じて 世間に取沙汰さり 家内乱らする運やくと

^{ウフカンゲー}
大計画しやならん 今度中や 至って静かに分守て 一寸の歩ゆみん 千里
の道に達しゆる 心ムチ忘れてやならん

23 ◎二二二 兌之隨

白日青天 陰雨濛々

此卦や 晴々晴々トソウル天氣に雨の降ゆるチムエー

口事やあしが 却て喜びとなゆるたとい

^{タトケル}
両方から嫡子か 財物財産の取分けかする心やあしが ウレー 亥子の方
木性の人に近きば 迷ひ事サバキて 東の方から明ち雲や拝まりんどう又亥子
の日時や 福德の入みせーる日やくと 心清めて御迎えし ウフチしやならんどう

24 ◎二二三 兌之夬

一枝花凋 一枝花開

此卦や 花の落てて 又咲ツる卦

心配事んあれ 喜び事んあい ウリから損なれ クリカラ儲けゆるたとい

僅かの心配事やあしが 喜び事ん 目の前近くにあるくとやれ 今までの事や
悔まんぐと 向て来る喜び 求めゆがまし

此卦や 泣ちやい笑たいの卦やれ 第一 心の晴れのねらん求めて 心暗ら
がてからや 五六月にや 他人の心配事までん引受けゆくと 晴れのありはど
やる

25 ◎二三一 革之咸

逢時不為 更待何時

此卦や 夜の明けて 暁の御日のあがいみせる卦

クリマデヤ 神元祖までん 暗らしみに打向かて 香花のカテ拝マラン 家内
暗らかて居たしが 今年からや 夜ん明けて 御日のアガユルタトイ アカガ
イに立ち向て ^ユ吉かる運気の ミグテ チョンドウ

やれ此節ウクリラングト 物事シイナチ 子孫の道ミシ 家業の發達取計レ
節遅リシやならん 一・二月や福祿備はて 四五月にや宝求めゆるちむい
やれ夏の節や 家鬼(ヤシチ神)のアガミ油断しやならん

26 ◎二三二 革之夬

夜逢山君 進退兩難

此卦や 去年からかきて ウス心配^{シワ} クス心配引受け ナマや免^ズかアタンリ
思むたれ 又ん クス心配にハイかかて 進みんならん 例れ 夜道^{シリメー}に前後
から悪風^{ヤナカジ}に 取いまカットウル タトイ ヌギテ ヌギラン危にハイかかて居
しが 御元祖の御守護の強さ 又北の方 御神の御助けに逢て ヌガアてい
つん

やれ御礼儀拜で 御念じ高めり

27 ◎二三三 革之隨

魚龍得水 變化無窮

御神御元祖の 福ラサミセール卦

一門親類 ハイスルテ喜ぶるしかた 魚と龍の水に逢て遊ぶが如く 嫁取 婿
取の喜び 財物錢金の徳 子孫の繁昌 誠にイースマーイに ハイかかて 三
月と十二月や 他人との喜び 夏の節にや 南方からの喜び迎て 物事思じと
叶はゆる上運やしが 心放ち由断シルンセ 他人に先取りさりくと 慎しみ第
一どう

28 ◎二四一 隨之革

居家不安 出他心間

此卦や 中柱の弱りて 嫡子ブラアリの卦

中昔の世ウテ 足ヒザのカナワラン 元祖の婦に別りて 恨みの強ふさ 嫡子
ブラアリスル為めに 今の世になてん 家内や 心定みの取らん事ウフサ

肝苦勞の強さるみぐいやれ 心迷ひさんぐと 静かにさんあれ 口事官事引受
けらねならん

やしが 財物や聚まゆる運やくと 求めりは 思ひいままに求めらしが 妻子
の運と取りけしてや ならんどう

29 ◎二四二 隨之兌

古人塚上 今人葬之

此卦や 昔墓の跡に墓造たるたとい 古屋敷に家造てるちむえ 先ち主の
遺念のかかゆる卦

やれ 先ち主の遺念のかかゆるくとや たとい売たい買ふたいの品物やてん
たんきゆしがまし 殊に旧妻旧夫のインエン結ばちからや 一生の徳損ジ 子
孫發達の道 塞サずるくとやれ たしなみやあしがまし

30 ◎二四三 隨之革

伝相告引 罪及念外

此卦や 口事のある卦

家ガメー 屋敷ガメーの悪るさるか 火水神のタトルチ などうるために 家
内や婦子娘子に不為受け 口事官事の起りらんりすくと 慎しみ第一どう

今年や 僅かの事から口事とない 一人が口から千人の口となて 九十月や思
の外 ^{ワザワ井}災 引受けゆくと 東リト西リノタンか慎しで 南北に向て親しみ求め
いどんセー 災難や消えて喜びとなゆん

31 ◎二五一 大過ノ夬

蓬来求仙 反為虚妄

此卦や 余り成功急ぢ チットに楽求めらんりす ちむえ やしが 却而事々
に 破り苦しみ受けらねならん 殊に八九月や 心勞重ね 十霜月や 家内に
浪風の立たんりすくと 物事急かんぐと 辛棒と念力の ありはどやる

又今年や 物事ツチビに取決はめしからや 泥田に足くみんち 抜がらんぬ
くと たしなみ第一どう

32 ◎二五二 大過之咸

靡室靡家 窮居無所

此卦や ウヒナ自分の住家のあるむぬ 出て道に迷ゆる卦
二代か五代の元祖世に 住家失ない旅に迷ユたる 遺念のチジスウや 今の
世にん 子孫の旅先ちに 障い事のあて 世間口舌にかかゆる事の出ぢ 災
難引受け 心労重ねらねならんくと 此の八月や殊に慎しで 御元祖の苦様祭
りんで あぎゆしか まし

33 ◎二五三 大過之困

花爛春城 万和方暢

此卦や 上下心打合ち喜ぶる卦
春の花の咲き乱れたる気色やて 家内の内外和團和合の結び 取らさり 福ら
しいむの
之れ迄難事苦勞ん 十分にさるくとやしが 今年からや 遠さ近さの人 他人
までん 心打合はち 東の方から生目の入らんりすくと ユタサル様 取計
れしわ 物事思みじとや叶はて 遠方からの宝の入ゆしと 俱に財物の栄い取
ゆる卦

34 ◎二六一 困之兌

千里他郷 喜逢古人

此卦や 苦しみの中に 喜び見づる卦
日々の営みに 汗水流がち 明けくり 肝苦勞のハテや ねんあしが 楽や苦
るしみの後とど 知ゆるためしやれ 衰りやくと 衰りんり思むるなよ 今年や
千里旅の上ウテ 懐かシイ友しに逢ちやて喜ぶる卦やれ くの秋の節や 別れ

て居たる人ん みぐい逢ふて 肝心合はち 冬の節からや 思事ん叶はて
楽ないんど

35 ◎二六二 困之革

三年不雨 年事可知

此卦や 孝事求めゆる卦

旅に世終たる霊の 祭り求めゆる卦やしが 三年続ちの旱天^{ヒヤーヒ}に 草木の水フサ
スル チムエー 世間並みに アマター風 無縁仏の祭り求めて 水フサスル
心やれ 時なくに肝フサジ取て ンザリ山なゆるくとのあれ 五・六月や南方の
水慎しで 七・八月の頃思ひ寒がゆる事のあら時や 家内離りて 立ち出じる
かマギサかかて 家内の立場改め 業口求めゆしがまし
内外の孝事 忘れてやならん

36 ◎二六三 困之大過

清明夜月 独座叩盆

此卦や 夫婦離別の卦

サやか 照る月に 独^ヒつい海山なかみて 泣つるしかた哀り 苦しみの身にあ
まてからど 浮世恨みとて 我身や泣つるんりち 泣ツるしかた
やしが官職にある勤人どんやれ 此難ふしじ助かゆるくとんあしが^{ツト} 口舌やか
かゆるくとやれ 心静かに節まつしがまし
うれ ヌヌ故んあらん 生れぞーやれ くと心迷ひしやならん

37 ◎三一 大有之鼎

忙々帰客(路) 臨渡無船

此卦や 道に迷ゆる卦

例れ 他島行^シチ 帰らんりセ 渡シ場に船のウラン 立ち止マテ思案に くり
トウル チムエ 今年中や 家内事ん 財物銭金の道ん 始末付^{イナマチ}きららん

肝苦勞の強さる年やれ 物事アシガチやならん ウレ 三代か五代の世に 遠
方に嫁やらチエル女子の 夫方と都合の合はらん 親の家にん 帰ららん 道
迷そうる たといやれ 道開けて取らすしがまし

38 ◎三一二 大有之離

青鳥（鳥）伝信 鰥夫得配

此卦や 嫁取婚取の卦

くれまでや 親兄弟 ^{トッジ} 妻子に縁の遠さぬ あたるくとやしが 御元祖事シイナ
チ ^{ウンシジ} 恩系和合取いみそうちやる喜びから 生ち目に迄ん 嫁取婚取いの初まで
クンナゲ独い女や夫ムチ 独い男や妻迎ユるタトイ 今年からや 善いたよい
求め 夫婦の和合 財物銭金の喜び求め 豊かなゆるみぐいやしが 秋の節
や 僅かシイ財物損じのあくと 慎み

39 ◎三一三 大有之睽

事多慌忙 画出魍魎

此卦や 家敷荒れ家鬼荒れの卦

くの家内や 家敷の未申の方 又や午戌の方 ^{キジムヌ} 魍魎の集マイ所なて 御ミチム
ンのたとるちの爲めに 物事乱れガマラサアテ 事ウフサ肝苦勞のハテーねら
ん 思みじん叶はらんあくと 風払十分にシイナチ 家鬼の安緒シルンセ 冬
の節からや 思事ん叶はゆん

40 ◎三二一 睽之未濟

方病大腫 扁鵲難医

此卦や 病難口舌の卦

肝心ん立派に ^{ウク} 行ネン立派やしが 家内事やダチあかん 治メカタンならん
肝苦勞の強さるたとい ウレ一門親類にクサハネの出じて 口難のある為めや

れ 九・十月やユクユク慎しで 今年中や他人の力に頼ゆて 渡世する考へす
しがまし

41 ◎三二二 睽之噬嗑

暮春三月 花落結実

此卦や 成功立身の卦

花の落て実のなゆるしかた やれ学文の道や 素より家内業口までん 目的立
てて 成功立身するちむえ 男ん女ん心打合はち 産しハンゾウの道に喜び
秋の節にや 財物の喜びん重ねゆるくとやしが 今年や他人からの事情事ん
多フサル年やくと くめーきらんあれー 人情に走して 他人の事情聞ちやる
為めに 思みゆらん 大事な事引受けゆくと 慎しみ

42 ◎三二三 睽之大有

有弓無矢 来賊何防

此卦や 道具ブラアリ 財物ブラアリの卦

例れ 船やあしがフウ(帆)やねらん 弓やあしが^{ユミ}矢の子のねらん 仕事やあ
しが元錢のねらん 神^イダナ位へーやあしが^{シン}心の不足あんせ 事や届かん あ
れ 物事グウトゲーや不足しみてならん
東と西りの方に 仕事思事利益やねーらん あれ 夏秋の節や手控し 春冬
にシイナスしかまし

43 ◎三三一 離之旅

陽翟大賈 手弄千金

此卦や 福德の神の集まいみせーる卦

御ひじの強さいみせーくと 物事諸事相叶はて 災難に當てん キリハンシ
災殃^{ワザワイ}に當てん 却而喜びと変じ 錢物の取いけー 商の道ん身体ん達者に
思みいの外 宝求めゆる運氣どう

僅かし口事やあしが^ガ 秋から後くれはんーどんせ 儲け口に驚つる程 泉口求
めゆる卦

44 ◎三三二 離之大有

北邨山下 新建茅屋

此卦や 物事落付^{ウテチチ}のねらん 根クマのイラン卦^ネ

例れ 新風水^{ミイブンシ}くヌデ 屋墓^{ヤーハカ}作たれ 地の神^{スハ} 方位の神の御シジのサアラン

悪風悪魔の集まい所なて 一日ん安かならん ウリか為めに一家落付のねらん
くまいらん心や散り散りになて 思ひ叶らんあれ 地祭り方位の 取直しすー
かまし

45 ◎三三三 離之噬嗑

射虎南山 連貫五中

此卦や 名誉^{トドル}轟^{トドル}つる卦

誠に上上の運氣やて テガラ立てゆるたとい 財物銭金ん心のままに 四方八
方に思事や叶はて ミジラシイ見事な運氣

やしが イクブン卦の過じらんりすくと 第一自分慎しで 賤しい業や色酒に
迷ら時や 上運や悪運となて 世間騒かする驚き事のあくと 身分の慎しみ忘
してやならん

46 ◎三四一 噬嗑之晋

万里長程 去々高山

此卦や 旅人の万里山阪^{ヒラ}越て長旅するちむえ 此山越て あの阪^{ヒラ}登りば又アノ
山クノ阪^{ヒラ} 越てん越てん 果てやねらん 哀り苦しむるシガタ 今年までや
亡^{グソウ}人の旅路やしに付て 七、八月迄でや 旅立ち慎しで儲けづくん 利益やね
んくと 肝かちんさんぐと 宿に落て付ち ハレ間マツシドマシやあらね

47 ◎三四二 噬嗑之离

年少青春 足踏高(紅)山(塵)

此卦や タタマイ トドクエイの卦

物か^{ムノ}でん消化さん トドクウウル チムエー 諸事物事ダチやあかん 成す事
スル事 フミグイサネーならん

ウレ 三四代元祖世に 親グハサ 子グハサ 夫^{ウト}グハサ 妻^{トシ}グハサから一家の
結びならん 離別^シし行ザル女の肝フサジ取るか 幼少童びの高登いそうる卦や
れ 今年や 旅立ち 嫁取婿取りや 善い事んり思たしが クスブウルに手打
クデ 一生誤りらねならんくと 慎しみ肝要どう 七・八月や 熱バナシチの気
やれ 慎しみ取り

48 ◎三四三 噬嗑之睽

馳驅四方 山程水路(程)

此卦や 財物銭金の為めに チマイから出て苦しむる卦

旅山かキテ苦勞すしが 財物運の足らん ウレ昔世に子孫生し ヒルギさる元
祖の供養のあるちむい やしか此の元祖の陰徳や 今が世に 子孫に やか
ラ生らち 繁昌する卦やれ 素相に思むらんぐと 苦様御祭りんで あぎい
どんセ 四五月からや 吉かる知らしの拜まりんど

49 ◎三五一 鼎之大有

未嫁閨女 弄玉不当

此卦や 昔元祖世に 夫^{イナグワラビ}モタン娘童の玉取たるみぐい 親フジの意見にスム
チ 道ならんコトサル 因縁のチジスウや 今か世にんあらんりすくと 娘童
ビンチャーや ユクユク親の意見に守て 道越えしやならん

又今度中や人勝さいの心ムタンゲト 頭^{アタ}マヒククに通いどんせ 十月からや大道
どう

50 ◎三五二 鼎之旅

青龍朝天 雲行雨施

此卦^{チイ}や 雨露の恵み受けゆる卦^{チイ}

家内人数の肝ムチ心ムチのツラサ 親子妻^{トジ}ミートの仲ん 和合しイバイ 心配^{シワ}
事にハイかかてん イヒのイエー ケーんならん ウノ為めに家内運氣や 朝
の白雲の天に登ゆるしかタ 旅にウシン家内人数ん サワイ ヒチヤねらん
住家求めて安らかな卦 五月十月や旅からの喜び 世間に誉みらり 物事相叶
はて いつん

51 ◎三五三 鼎之未濟

弱小藤国 問於齊楚

此卦や フチバンタに立チョール アンベ 南の方や チリトドウ 例^{シリイメー}れ前後
から 災難引受け 四方から 棺^{ヤイ}フク ヌシキトウル チムエー 家内運氣
の足らん 今年や二、三度に及で 心労事^シのあて 四月九月や 口事のある節
やくと 子午の方 深く慎しで 物事や 念力と取いなし第一どう 又みだり
に心動ぐちの あてやならん 世間交はいに 念入りはどやる

52 ◎三六一 未済之坎

狡兔既死 走狗何烹

此卦や 上元祖と中元祖の和合取みそろらん 五六代旅渡い元祖の上元祖に
御不礼の^{チミトガ}カド 罪科の深さや 流刑堪當の取沙汰に及で 苦様の強さる卦
ウレ 上元祖の根ダテや シテテ 別事に手掛けサル為めやれ 今の世にん
財物銭金や 有てん使イ道知らん 食^カミ道ん知らん 有てん ナンジョウガラ
のチムエ 例れ 前にアル物や腐らち 別物取らんりするアンベー
^{ウエキシツ}富豪のナンジョウガラのスシリ受けらねならん やれ心思み直ち第一 近き親
類のイバイ助けて 口事ハンスしかマシドウ

53 ◎三六二 未済之晋

泰平宴席 君臣会合(坐)

此卦や 静かなる御座敷に 上下心打合はち喜ぶる卦

今年や神元祖の御徳化に依て 福德の和合そうくと 子孫の喜ぶ家業ん発達し 財物銭金ん 栄い取らさりみせーる いー運氣どう

やしが ^{イナブ} 婦人ヌチャや たしなみのねんあれ 口事の卦やれ 慎しみ第一どう

54 ◎三六三 未済之鼎

虎榜雁塔 或名或載

此卦や 旅立ちの卦

古郷離りて 旅に出じ立ち 財物損じて 心労苦勞さねならん みぐい

旅立ちウテ 官門に出じいどんセ 初めや苦勞しん 後々や楽なゆる卦やしが
ウノ外の業や霜月・師走の頃ウテ 財物損じ 心配事引受けらねならんくと
たしなみ第一どう

55 ◎四一一 大壮之恒

落木余魂 生死難別(弁)

此卦や 善し悪しのわからん ^{ナンジシワ} 難事心配事にハイかかて 狼狽ソウル為めに
ユシアシのわからんチムエ

木から落てて マブイ落てソウル タマシイの生き死んわからん たとい ウ
レ ^{ケビリ} 絞首者靈か 木の精の邪魔やくと 払ひ除チ 四月十月海河渡いどんせ
病難受けるか 財物損じゆくと 慎み取り

56 ◎四一二 大壮之豊

馳馬長安 得意春風

此卦や ^{カラ} 空元氣 ンナサワジ しやならんどう

深く底^{スク}くウトチの物考さんぐと 一時の景気にまかち 走い馬に^{ブチ}鞭かキテ や

ならんどう

此卦や 勢いにまかち 走ら^ハちやる馬ドやしが 夜嵐の吹きば 散りていく花
の例いやれ 今^{ナマ}の内に引ちしめて 行か^{ナマ}んどんあれ 十月から後や 家内にサ
ワイ事 心配事の出て 失敗^{シタ}じらねならんくと 今^{ナマ}の内にくめしきゆしがまし

57◎四一三 大壯之婦妹

渴龍得水 濟々蒼生

此卦や 四、五年先ちからの望み事叶はて喜ぶる卦
財物錢金の道ん 子孫の喜びん 嫁取婿取の道叶はて かわち居たる魚の水
呑むる心地どう 又親元祖の孝事 祭り事ん整て 肝かるさ しみそうらする
卦やれ 連りらんぐと シイナチ アギユシがまし

58◎四二一 婦妹之解

僅避狐狸 更踏虎尾

此卦や 人の恨らみ受けゆる卦
嫁取婿取か 財物錢金の道から 人と仲タゲーの出て ウノ為めに 二三度
に及で ウッチェー ヒッチェー 災難受けゆるチムエ 此の難フシザンリ思
たれ アノ難にハイかikai 苦勞取らねならんくと 前以テ 之がフシジ シ
イナチ タシナミのあれ 冬の節からや 願望ん叶はて いつん

59◎四二二 婦妹之震

兄耶弟耶 唐(庚)人之害

此卦や 二代四代の世に 嫡子二人シ 世の取イパーケのあたるか 嫁シト方
の争ひのあたる 因縁のみぐいや 兄弟^{ドシ}か友ぬちやに 害さるる事のあくど
心得りはどやる 又毎年節取い損じたる為めに 思みじとや叶はらん 今年ん
十・霜月までや 妻子の運の弱さくと 此節までや 十分に慎しで 神仏かけ
て願望立ていどんせ 冬から後や 心安々と 願望ん叶はいん

60◎四二三 婦妹之大壮

花笑園中 蜂蝶来遊(戯)

此卦や 元祖世に 花に浮名流りたる 男が女ぐの縁の引合に結ばりる み
ぐいやれ 今年中や 男が女の縁談事や くめしきて 縁談の話の出じらば
や 時遅りらんと 結ばんあれ 世間口舌に かかゆるくとのおくと 遅りて
やならん

61◎四三一 豊之大過

天崩地陥 事々倒懸

此卦や 天地静かならんと 父母の上に障い事のねんあれ 身障い取て心配
さねならん
ウレ 二方の神元祖のチナジのねらん 所がわいシチバ 変わいそうる アン
ベ 中や繁昌そうしが 本末や共に枯木の心 やがて中マデン 朽チ木とな
ゆる シカタやれ 急ち本引チ起ち 枝葉に恵みかきらん あれ 難事や目の
前近くにあくと 七月十月に御しらしのあら時や 急ち ウスリ願あぎゆしかま
シ

62◎四三二 豊之大壮

交趾越裳 遠献白雉

此卦や 所変いするか 旅立の卦
知識ズンブーン人に勝ぐり 考へ計り事ん 常並みやあらんしが 今の所ウテ
や 一寸のアガチドスル 例れ グジラの池小にや育たかん 所からのワッサ
ワッサと思じとや 叶はらんあれ 所変いするか 旅に出じ立てわる成功やす
る
此卦にあたて 若しや出じ立たん 居付ち居るむんどんやら 十・霜月の口舌
官事のフシヂしわどやる

63◎四三三 豊之大震

伏於橋下 陰事誰知

此卦や カタビチの強さる卦

之れまで他人の為に 思事や叶はらん ウヌ事破り くの事破り ナス事スル事 一チン実やならん

ウレ 上上に カタビチのツウサ 又ザンスル者のために 事々にザンスリ成す事 スル事 ムット ワザワイ サリシやわからん 四・五月にや 又ワザサリクト 心得りゆかまし

64◎四四一 震之預

郡(群) 雉陣蜚 胡鷹揚翼

此卦や 有声無形んりち 音やあしが形や見らん卦

物事初めいどんセ 音高さやあしが 実やならん ^{ナンジ}難事入りてん ガラトなて後々や 家内引ちくち 散り散りとなゆる シカタ

ウレ 風水の余り陽氣過ぎ 屋敷のカッコウの寅卯から未申に張り 欠ギの出で クサテ弱サル故やれ 取り直しすしかまし 目的や三・六・九・十二月に半ば達しゆるくとやれ 頑張ゆしかまし

65◎四四二 震之婦妹(来)

茫茫大海 過(遇)風弧棹

此卦や ^{ウフトウ}大海の浮小舟の 波風にムマリル卦

かかる方 しかる方ん ねらん 親兄弟にん頼みとならん 旅の上ウテ 一本立ちそうて 日々の営みに 難儀苦勞するしかたやしが 望みやねらん やしが望みのねんくとんりち ウノ業なざら時や 波風に逢て ワエーク シテタル小舟のアンバーやれ 業なぎてやならん 哀りや時の間どやくと 頑張り頑張り

66◎四四三 震之豊

炎天六月 閑臥高亭

此卦や ハーダーリーの卦

難儀イトテ 五体遊バスル チムエ 与所から見れば 楽のグトウしが 楽や
あらんど 内の苦勞や 胸内アキテ イヤン ドアル

此人や常人と変はて 一家の事やか 島国の^{マギト}事考へて居しが 心助けて 力
となゆる人のウラン 節マツル タトイ 向ふ十年内にや マギ事の現はりて
世間迄ん 驚かする事やれ 素相に思てやならん

67◎四五一 恒之大壮

青山帰客 日暮忙歩

此卦や 肝急ぢする卦

ウヌ事 クヌ事 肝カチシ 心急ぢそうるくとの ウフサ

やしが 今年や 官魂の道 フサヂ ウシニ付て 物事叶はいぐりさ なしぐ
りさくと 肝急ぢ サンシがましど

又遠方に立ち出じゆる心や 屹度思みい止まて 目の前にかかて居る マチブ
イヤハンチからアランアレー 却而 災難求めゆるくとやれ 慎しみよ 物事
差し^シ迫マテから ジタバタさんぐと 前以て事サバキ 取運^{トイハ}くび 肝要ど

68◎四五二 恒之過

夢得良弼 真偽遍知

此卦や 夢見カマラサの卦

ユクシ事のソウ事となひ 言葉に言い当てゆるチムエー

考へなシに 只イチャル言葉どやしが ソウ事ナテ 驚つるアンベー

^{イミギン}夢見に当たゆるくとのウフサくと 慎しみ第一ど 今度や 身体チカリテ シイ
弱イすくと 海山慎しで たしなみのねんあれ 物損じ 事損ジしやならん

冬の節や ^{ツマジ}人交はい 念入りわどやる

又今年中や 言葉ヂケ たしなみ第一どう

69◎四五三 恒之解

望月玉兎 清光満腹

此卦や 官福和合之卦

子孫繁昌の道 財物銭金の喜び重ねて 世間シケンから ウレーマサ サリル程
喜び取ゆる運氣 家内に僅かのサワイ ヒチのあてん 陰徳の光り 御元祖
の御シジの強さくと 心安々と 通ゆる卦

又一家に 他人他系の同居するくとのあてん 却而 福ラサビアル

70◎四六一 解之預

避嫌出谷 仇者懐剣

此卦や 怨らみある人に仇アヅさるる卦

例れ 苦しみの中から しみ出じて ナアや楽なたんり 思たれ 思みゆらん
災ワザワイ引受けて 苦しむるしかた

くま居てや 育スだからんりち 所変はいされ 却而 災難引受けたるアンベ
今度や悪神の両方から出じて 例れ一 火の出じて 水のアメーユル年やくと
四・五月や 火水慎しで 南方遠くに出じて やしまん 悪風払十分にし 他
人交い慎しで 不覚取てやならん

71◎四六二 解之預

万里無雲 海天一碧

此卦や 遠さ近さに 思事の多さ ヌーがやら 心や散り散り 思ひまとまら
ん 又目の前の立ツク 暮らし方にん 心の染まらん かアマ後々の 仕末方
法考へて居る しかたやしが 明き雲や 拝まらん ウレ 結び合シの鎮守の
神の御ヒジの よろさみせる為め 儲きてん 他人に分きり 自分シヤチカユ
ウさんあくイキガイナクと 七・八月十・霜月や 男女の道慎しで 結びの神に 願立シド

ん七 遠さ近さの思ひん 叶はて 目的定まゆん

72◎四六三 解之恒

玉兎升東 清光可愛

此卦や 玉の兎の東の空に 登ゆる心 光り輝ちのツラサや 年若さ女の
子孫に喜び 財物銭金ん 家内事ん 宝求め 玉ダツル運氣やシガ 目にや
見えて 手に取いカンテソウル チムエ 肝と肝ならんあしが 心慰み 打
語れする人の 居らんどウクル ドウの肝シかチ 居るシかタ
ウレ 親しき人の 敵となたる怨みか 又や初縁の恨みやれ 取直しすしがまし

73◎五一 小畜之巽

桐竹相争 身入麻田

此卦や 自由失なゆる卦
物事ドウの心のままならん 今年や親が上に 心配事のあるか 自分^{ドウ}の上に身
障はい取るかやれ ユクユク憤しみ肝要どう
鳥に居てん 旅に居てん 親類一門に 哀^{イミ}受きゆる運氣やれ 七月八月や 寅
卯の方や憤しで 此方に行ちどんせ 必ず哀事聞つん
此卦や 産神の祭り忘らんぐと 神クデ押立て 信心願望かキイどんせ 御助
けやあくど 念じ高めゆしかまし

74◎五一二 小畜之家人

池中之魚 終無活計

此卦や 池の中の魚の 水フサ物フサ スル心 業口^{クウ}の小サ 物方の小サ
世間^{シケン}ワーの狭サアレ ウッピ^{イバ} タノガキテヤ 後々の暮らし方ナランアシニ付て
広さムチ出て 風水組し 世間^{シケン}広くに 業口求めゆしがまし
ウリや 三代五代の世 独身女か 神人女の世間失なて 水フサ物フサ ス
ル心やくト 北の方に向て 供寄施しすしかまし

75◎五一三 小畜之中孚

択地而居 福祿綿々

此卦や 福祿の卦

墓や屋敷の風水のリキテ 子孫繁昌 財物の栄イ取て 喜ぶる卦

今年や五月頃 僅かシイ 心配事のあしが 福祿の運やくと 差支やねらん

却而 子孫の喜び 財物の栄い取て 一家安らかな卦

76◎五二一 中孚之換

敗軍之将 無面到営

此卦や ^{マキイクサ} 敗軍之卦どう

例れ 儲けヅクの為に 旅山に出て思みゆらん 失敗重ねて 家内に帰ゆる面目のねらん 大道通ゆる^チ面らのネン あしに付て 顔カクチ ワチ道通ゆるチムエ

やれ今年や 物事慎しで 荒業しやならん 殊に 三・六・九・十二月や 身体大切にし 病難のフシジさねならん 身持大切にし 信心第一どう

77◎五二二 中孚之益

二月桃李 逢時爛熳

之卦や 誠の神に助けられ 喜びの卦

家内や 二月三月桃李の花の咲チカントウル タトイ 親から子まで 肝ムチ心持ちのつらさ 陰徳の引チャ合シや 嫁取婚取から 財物銭金業口までん^{ヒザイニジ-} 左 右から 願望ん叶て 一家繁昌の栄い取ゆる卦

78◎五二三 中孚之小畜

両虎相闘 望者失色

此卦や 驚チ事のある卦

僅かの事から大事となて ^{マギクト} 世間までん^{シキン}驚かする たとい

之れや ^{ウイカミ}上神元祖や下になち 女他系元祖や上なち ニラミ合イソウル シカ
タ ^カ上み^{シム}下んねらんあれ 物事サカシマ事の多くなて ^{ニゲージト}願事や叶はらん 四月
十月や病難の卦やれ 身持大切にしわどやる

79◎五三一 家人之漸

龍生頭角 然後登天

此卦や ナーダ資格の備はらん卦
例れ 力のねらん ^{ムトシン}資本金のねらん者の 業なさんりセー チやしナサリが
及ばらん事に望みかけて 届ちハや知らん キガのムトやれ 第一資格造りわ
どやる ウレ 位ハイ又や墓に 亡人の位イに 年足らん童の 高登いうるか
たち 今年や財物撒じゆる運やく 財物取扱 慎しで 春の節にや 女道に
近か付かんしがまし

80◎五三二 家人之小畜

見而不食 画中一餅

此卦や 物に迷^{マヤ}サリル卦
例れ 目にや見ゆシが 取いんならん 自分の物やしが 勝手ならん 影やウ
チユシが ^{マヤ}ンナムンドヤル
孝事方御祭り ウサギテン カラド取いみセーる
やれ 今年や ナス事 スル事 ムット カアガア事なて働ちん 実や他人に
ウツ取らり ^{マヤ}ンナ手カラ手なて ウカシムン 之れや 神元祖や 御アガミ
ン アシガ 全くがラのタメシ 真のネラン 又三代五代の元祖世に 女の食
欲の義理のヨーサヌ 極楽取らん因縁やれ 苦養祭りスシがマシ

81◎五三三 家人之益

巖(蕨)手提弓 射而不中

此卦や 物事志とハネテ 目的相違スル卦

念に念入りて ナチャル事やシガ 難儀仇ナテ実ナラン 肝に肝入りて シヤ
ルコトヤシガ 之ん トトナラン ムット アテハンリ事ナテ 届かん 之れや
元祖故んあらん 余り人情の過ギテ 肝のダチ アカン故やれ 取イビチーや
取て ハネイビチーや ハネて サンアレー 人情や 却而真実の不ダミ ナ
ユル タメシンアクト 人情に引かサツテやならん
七八月や 旅に立ツしる ましやあらに

82◎五四一 益之観

三十六計 走行第一

此卦や 立ち出ぢゆる卦

此度や 三十六計 悪神に取りまかり 家内に悪魔の入ツち 御元祖の力の
力ならんアレー 早く逃ギユシかまし 事や七・八月申酉の方から 起りて来ウ
くと イヒの欲徳や トンケーラングト 立ち出じらんどんあれ アブネ事に
ハイかかユクト 急ぐぢ立ち出じらねならん 霜月・師走や 旅にウテ空しく送
ユルコトヤシカ 急ぢ出じらねならん

83◎五四二 益之中孚

一把刀刃 害人何事

此卦や 肝長くムテヨー 短気ハラ立ちや ケガの元ど アチ物ン サマサン
イチ立ちシドンセー ケガとなて マギグト引起されならん

静かに肝イシテ 取イ直チ行チドンセ 立派にトトねらりる事やシガ アチ物
サマサン 事荒ら立ててからや 自分シドウ 損じゆるくとやれ 心堅め 肝
に染めて 短気しやならん

又今年や 酒と色に身損じゆる運やくと たしなみよ

84◎五四三 益之家人

先人邱基 都在大樑(樑)

此卦や チビのイーチカン卦

根ヒジの ウルサランアレー チャシ ムトウユが 根ヒジ サシワル枝葉ん
サケーイ取ゆるタメシ クサテの弱さくと ウリに手かキ クリニ手かキ チビ
ノトジミヤ知らんアクト 利徳取タルクトのねらん

ウリや 昔神元祖の墓^{ムト}知らん 旅から旅に流れ 世代^ヒ経たれ 今になてや
親子別れて 渡世スルのかタチ 七・八月にや 年親にイチャテ 墓^{ムト}尋ねゆる
シガタど

85◎五五一 巽之乾

妖魔入廷 作芸芝蘭

此卦や 屋敷荒れの卦

悪風悪魔の手ワザスル為めに 六畜に損ジ 財物聚らん 家内に病みハナシ
チのテーラン 之や屋敷風水の シジ高サルカタチ 五六月や 北から妖魔^{ヤナカジ}
に邪マサリテ 驚事のアクト 旅山にうシヤ 運氣強みて 風払シ 家内人数
の身体がフウ 願立ツウサ念入りは 北カラツウル危のフシジナユン

86◎五五二 晋(並)之漸

四皓囲碁 消遣世慮

此卦や 家内事忘れて タハフリの気 家内かキナギテ ユス事に心染み込で
妻子^{トジクワ}の事ン トンケーラシ ユチサクトルりち 心ユルカシのシビテ居レー
後^{アト}のククイヤ チヤシククイのなゆが 七・八月頃からや 家内に波風の立つる
チムイヤれ 一家散り散りにならん内に ムヌググリ スシがまし

87◎五五三 巽之復

清風明月 対酌美人

此卦や 和団和合の卦

生れ分徳の高さや 親元祖の陰徳のみぐて 静か吹く風に サやか照る月や
家内の光り輝ち 肝心打合はち 福祿重ねての喜び 又神元祖の共に 和
合みそうち 子孫の福ラサ 守てメンセーくと 夏の節にや 辰戌の両方から
喜びの入ゆん 西の方の人と心打合チ 物事ナシドンセ 善イ事や 目の前に
思事叶はていつん

88◎五六一 渙之中孚

風起西北 帽落何処

此卦や 口事官事の卦

波風の強さぬ風に 吹チケーシケーシ 落て付ツる所の定まらん 口事の為めに
や 思事ん届かん 目的や半から破りらんりすくと 五月中や 口事慎しで
西北の方から 荒れて来る波風のマンドン 神元祖かキテ 福德祈いどんセ
事の定まて方法チクサリン

89◎五六二 渙之觀

宝鼎煮丹 仙人之薬

此卦や 功立てて益やねらん卦

難儀入りて煮ぢたる宝葉やしが ウレ 仙人の薬なて 人間の呑みんならん
難事^{ナンジ}苦勞し ナシジやちやる事や 立派に実なて トトねらって居しが ドウ
ヌ物やならん 運氣のみぐいや 物事あんどあれ 四・五月や 静に身体かフ
ウ願掛シ 慎しみ取れ

90◎五六三 渙(煥)之巽

深入青山 自建柔(茅)屋

此卦や 奥山に入ゆる卦

例れ 世間イヤなて 独い山奥に入ッチ 世離りするチムエ 思ひ塞かて 明
キ雲や 拜まらん

やしが人間の盛い衰いや 夏と冬心一時の運^{ミダイ}どやる 又アンスか マギサル波
風ん あらんそうて ウリダキの苦労災難に当て イジ切らん あてからや
男やあらん ちばて此阪越えて アヌ谷 ワチ出じいどんセ 大道んあるちむ
い 土曜の節々 又正・二月や 心寒さかて 子孫に心配事のあくと 肝の願
立てて 心迷しやならん

91◎六三一 既濟之蹇

桂花開落 更時(侍)明春

此卦や 下^ウり阪^{ヒラ} 下^ウりいんど 暗闇^{クラヤミ}に打向ユル卦

例れ 朝日の盛い取たる頃や 我が身チテ見ちる 与所の上ん知ゆるくとやし
が 与所の上のクリサ露程ん知らん 勢^{イッ}いにまかち 乗い出たる馬や 下阪向
かてウリユル チムエどう やれ くの節遅りらんぐと第一 我肝 改めて
フシブシやマシグ回て来る 春の節アツル 考へすシかまし

92◎六三二 既濟之需

怒奔燕軍 無所(処)不傷

此卦や イカリ ハラダチの卦

短気 ハラ立ちや 傷^{ケガ}の本んりち イカリ ハラ立てて 火花飛バシドンセ事
や 悉く破りの元ど やれ 人の甘口や聞くな 与所の甘口に乘しらりてから
や ハラ立たんウツミ 火花吹チ立ててイカリサマ 飛び出る道や 刃から刃
物アタラ 美心傷となて 後々や ヤングヒから 酒と色道に踏迷て 流す浮
名やあわりなもの 四・五月や格別慎しみ

93◎六三三 既済之屯

骨肉相争 手足絶脈

此卦や 一家離散の卦

三四代元祖世に 罪科^{チミトガ}アタテ 旅地に終たる 元祖や親グハサ 子グハサ
兄弟グハサ 妻グハサの爲めに 流刑のアンペー 骨肉離りて 和合取ららん
チダス 因縁のみぐいや 一月二月に 手足の病氣 九・十月にや 口舌のナ
ンジウの 兄弟間にアランリスクト 慎し肝要どう

94◎六四一 屯之比

心小膽大 居常安静

此卦や 膽^{チム}ククル マギク 落て付チのありわど 家内波風の フシジなゆし
が 膽心だちあかん イシズの弱さからや 目上のイサミン 耳に入りらん 家
内カキ ナギラ 渡世に迷ゆらねならん やれ今年中や 些々たるくにと 迷
ゆてやならん 膽心広く 落て付チ肝要ど 四五月八九月や 旅立慎して 身
体がフウ 願望すシかまし

95◎六四二 屯之節

捕兎于海 求魚于山

此卦や フミグイの卦

魚トユンリ山に登イ 兎捕ユンリ海にウリユル チムエ 物事反対の方に 事
なさんりセ チャーシ届ッカ 水クムンリ 潮^{ウス}クミ 潮クムンリ 水クダル 狂
リゲトや 心迷イドセー ウラニ慎しみのねんあれ 七・八月や 物損じ事損
ジシ 道に迷い 世間口シバに かかてや ならん

96◎六四三 屯之既済

暗中行人 偶得明燭

此卦や 暗^{ヤミ}から出て 明かがイに 向ユル卦

例れ 暗の夜に 行く先ちんわからん 迷て居たる くとやしが 神元祖の御
シジに依て 行く先ちに テー火見して 呉てしいみせるチムエー
クンナゲーや 心労苦勞ん サルクトやしが 今からや 大道に出て 楽ナユ
ンリチヤル タトイ 又ナママデ 仲の良サタル人と 仲タゲーの出じユシガ
ウレ 却而 喜びとないん やしが 四・五月や 心体大切にし

97◎六一一 需之鼎

平地風波 束手無策

此卦や 波風の強さぬや

浮世波風の荒さあれ チヤアシ送クテイツがンリチ 肝の苦勞や強さ^{ツツ}シが 力
の及ばらん 財物の足らん ナル限りの働らき やしが運数のねんあれ 旅立
嫁取婿取 家屋敷^カ井の修譜事ん 冬の節までや マツシがマシ

98◎六一二 需之既濟

植蘭青山 更無移心(意)

此卦や 奥山に咲つる蘭の花の心

生まれ立ちから 肝心^カリキテ 香バサからあしが 尋ねゆる眺めゆる人やウラ
ン アタラ蘭の花やし^カが ウスママ山奥に汚ちハテル タメシ
今年中や 子孫育て方に念入り ヒルヂ クマチ育てらんあれ 子孫に障い
事のあるかタチヤレ 今の内に願立てシ 由断シやならん 秋の節からや 喜
び取ゆん

99◎六一三 需之節

若有縁人 可折丹桂

此卦や 情きある人に助けられ 又苦しみの後に樂見する卦

今年や 上半や苦しむしか 下半や樂ないん ウレ 旧縁^{シカシイ}の引合シに 情き
ある人にみぐい逢て 恵み受けゆる たといやれ 財物銭金の道ん 儲口開

キテ 家内事ん一ツツ^{トト}整ねられることやしが 旅との事や 物事 節遅りら
んぐとさんあれ 取いハンジ事のアクト 夏の節までに 取運びすしがまし

100◎六二一 節之坎

三顧未看（着） 吾情怠慢

此卦や 肝願立っている卦

思ひ叶はらち タボウリ 願事ユ叶ハラチ タボウリ リンリチ 人の知らん
心思みくがち 朝さ夕さ 願望かキユル チムエ

やしが思事や叶らん 泣チくらす くとやしが 誠シる願の叶はらん事のあみや
がて神仏までん 御感動ミソーチ 御助の御仰のあるくとやれ 夏の節までや
辛棒しわどやる 夏の節からや 一事叶はて二事叶はて いつん

101◎六二二 節之屯

僅雖脱劍 張網可免

此卦や 災難から災禍にかかゆる卦

タシナミのあたるかじに クヌ難ハンシ アノ難ハンチやる事やしが アリニ
カキラットウル網や チヤシ ハンズが やれ物事 先チ方のわからん 事や
止みゆシかましどう

又今年や 人ニサスラッテ 禍い引受けゆる運やくと 人のサスイに乗てやなら
ん

102◎六二三 節之需

投入于泰 相印纏身

此卦や 家内運気の弱さぬ 内外共に官門に塞がとうる卦

外に出ジりば災難引受け 家に居りば心配事引受けゆるみぐい 日日の営みん
心のままならん 人の上ウレーマサするかタチやしが 人の上ウレーマササングト
人の財物ウレーマササングト分に安んじて 静かにさんあれ 求めて災引受け

ゆるくとやれ タシナミ第一どう

103◎六五一 井之需

籠中囚鳥 放出飛天

此卦や 自由なゆる卦

籠の中の鳥の 飛び出じゆるくとやれ 物事自由になゆるくとやしが 世の中や
打変て ウレ 狂り飛びしやならん たしなみのねんあれ 却而 家内ムチ損
じらねならんくと フリ飛ビ 高登いしやならん 今度中や 下々の者に 交
はい次第に登いどんセ 十・霜月の頃からや 家内和団和合の喜び取ゆん

104◎六五二 井之蹇

雪裡梅花 独帯春色

此卦や 雪霜の中に 梅の花心 三山ウグイスの 鳴声戀々と 東風の吹きば
便いバン掛けて 梅とウグイスの契り 取ゆるみぐい 嫁取婿取いや 誠に天
縁のなす所 家内事ん 時節まち受けて 立身の卦やれ 家に居てん 旅に
ウテン 四方に発達し 物事叶はゆる運やくと 節遅れてやならん

105◎六五三 井之坎

成功者去 前功可惜

此卦や 水の神の御咎み 受けゆる卦

水に損じたる霊の迷ユテ 居るシカタ 目的や叶ハテン 取イ損じゆるチムエ
やれ 水神の祭りあぎて 慎しみ取らんあれ 口舌のニヶ所から向かて 家内
に波風の立たんりすくと ^{カア}井祭りすシカマシ
又移転引越シヤ ^{ウツガ}産井 産神の思し忘らん様 なしはどやる 村の功労者一
家の功労者忘るな

106 ◎六六一 坎之節

九重丹桂 我先折挿

此卦や イチュー チゼーの卦

早まてんなら 遅りてんならんど 例レ 七重マシ内の 花のバーゲー ヤテ
肝急ぢシ人より 先にに折い取たるとやしが 根からクウチャねらん あしに
付て 折い取て 枯らするチムエやれ 節ハカラテ 根からクウサネならん
イタジラニ他人の恨み 受けゆるくとやれ 肝早さシやならん 嫁取婿取ん
此のたとい 早ならんぐと 遅りらんぐと 九月の節 忘れてやならん 又遠方
との事や 格別念入りて 七八月や 外からの邪魔の ふしぢし わどやる

107◎六六二 坎之比

六里青山 眼前別界

此卦や 物事アチラかな卦

目の前に形現はりてウレ 習れヒチさんてん 尋ねヒチさんてん 明らかなむぬ
仕事初めりば 成功やマチゲねらん 思ム事 願事 相談事ん 習れひちサン
テン 心に思まある通いどう やシか四月五月や慎しで 物事夏の節遅りら
んぐと シイナチ イチドンセ 思みじとん叶はて 喜ぶるくとやれ 節遅れ
て 宝取損じてやならん

108 ◎六六三 坎之井

九月丹楓 勝於牧丹

此卦や 物比びする卦

春の花ん見事や やしが 九月の紅葉ん勝^スぐりたむん チルヤ マシヤが^スんり
ち 物比びするチムエ クリやか アリ 先チやか 後のムヌドマシやる 今
年の事や全て 後々の事る 叶ハインスリバ マシやれ 九月の節に 物事シ
イ ナシわ 諸人万人から ウレーマサ サリル喜びのあん 又今年や 千里
他国に旅立すしん 栄いの^{ムト}元どう

109◎七一 大畜之姤

尋芳春日 却見花開

此卦や 言葉と実と合はらん卦

昔から口に甘口や 実のねらん 言葉に花咲かすシや 腹に毒ふくみ フミス
ギユシや スシユシカ 多^{ウツ}さるためし

例れ 香い尋ねて行ザレ ンジ花どやたるチムエ 交はて見ちやれ 悪魔どや
たる んりちやる たとい 今年の一二月や クヌヨーなアンベやれ 物事
深入りシや ならん

七月八月や 子丑の方に 思ひ叶はて 己癸の月からや 身体ん達者にない
ん

110◎七一 大畜之賁

銀鱗萬點 金角未成

此卦や グウトグウの不足の卦

例れ 恩の方や尋ね 系方や知らん 母やウシが父や知らん たとい ミイト
グウの合はらん為めに 物事一事や叶はて 一事や叶らん ナス事 スル事
グウ ハンラなていつん やれ常に肝グタミチのアル卦 あんセ 家内事や届
かんあれ 船とフウと一道に 夫婦の結びや ありばどやる

御元祖道ん 恩系の正し 御サトイ スシカマシ

111◎七一 大畜之損

萬物成功 陰陽相合

此卦や 天地和合の卦

陰陽和合し 夫婦和團の卦やれ 物事叶はらんくとや ねらん

今年や 業成て功立ている 上運氣やて 財物銭金 嫁取婿取 子孫繁昌

種々叶はて 誠に喜ばしいくと 三月節や 善い事の重ネ重ネ 喜ぶる卦
旅に出じいどんセ 格別功立ている年ど

112 ◎七二一 損之蒙

一渡滄海 後津何濟

此卦や 一家破りの卦

行先に望みのねらん 又助けのねらんチムエ 七代元祖世に分れたる子孫や
六代世に血乱れの為め 父知らじのたとい ウノ因縁のみぐいや 二代が世に
ん くのかた 例れ 泉の水に他人の土ウチクデ 濁ラチャル ウラミや
子孫の道塞さぢ 不幸事の多フサル事やれ 神仏かキテ 願望し イカナル
苦勞ん 之れ先ち先ちの因縁の晴れとむて 露程ん ウラミ ユウミ サンゲ
ト 福ラサト思て 徳積みどんセ 一世ウテや 程々のわかつて 分々の定め取
らしみせくと 恨みユウミシからや 却て破りど

113◎七二二 損之頤

日中不快(決) 好事多魔

此卦や イヂリのねん卦

人間の一生や 物事思み切り イヂリのねんあれ 叶はらん ウリが為にスバ
ヒラに ザマサリテ 取いハンシ事のウフサ 利益や他人にケー取らり だち
やあかんあれ 男や切りハとイジリ第一どう やれ屹度 イジリト切りハのあて
事や 破りらわん くうりらわん イジ引かんぐと 思み切りのありはど 又と
明かがいや拝むんど

114◎七二三 損之大畜

龍攀虎踞 雲風際会

此卦や 物事改めて喜び求め 取い直ち 福德求めゆる卦

家内運や 今迄や変る事のウフサ ウヌ事クヌ事 事やカワイカワイ 外から
見ちや 喜びのグトウしが 肝内や 苦勞のウフサル時節ど クリや 神元祖
の塚所カ 拝ん所カの破り スウフ シイナチ ウリが引合せに依て 下々の
者から助けられ 力となて 思事叶はて いつるくとやれ 今年や 下々の者

カナサしわどやる

115◎七三一 賁之良

遍踏帝城 千門共開

此卦や 手ハタカア スル卦

塚所(※チカジュ、墓地のこと)の荒れ 風水のユウシジユル チムエ 或ね日
時知らん 墓の口開^ヒらちサル咎の爲め 香炉に不審事のあるか 火の御知ら
し事のあしが ウズミヤねらん うりが爲め 心配事驚き事の出じユクト 取
直し 願立てさんあれ 己癸の月にや 障い取いんと

116◎七三二 賁之大畜

雷門一聲 万人驚倒

此卦や 驚き事のある卦

この二三年内に驚き事のある 前知らシに二三ヶ月内に 肝驚き事のあしか
ウリウテ ウズミ取らんとんあれ 必ず二・三年内に ソウ驚き事に心配サネな
らん

ウレ 元祖世に 本妻除きて ユウペーに肝染で 家内事ナギテ 孝事の道
知らん 世送たる因縁や 今の世ウテン ウヌ タトイ 例れ 虎の子養て肝
苦勞ん 狂者養て辛勞するカタチ 後々や 手クウリ事の 出じユクト 早く
取り直しすシがまし

117 ◎七三三 賁之頤

魚龍変化 造花不測

此卦や 御天事知らん卦

凡そ人間一生の事や 財物^{トクシチ}銭金の得失の道から 子孫の繁昌^{ノチミイ} 生命までん
総て御天の御司カチみやしや 知らん人に依ってや 物事 ドウのズンブン
ドウ のらに依って 豊かナトウンリ 考ヘユル者のうしが 全く御天の御

シジ 自然造化の徳 知らんためし

やれ 急ち思みい不足や改め悟り 開らち感謝ウシリガフウの心ウシリガフウのあれ 子年の子の月日に
や 大小の事叶はて 喜び取いんど 又子の方の御神や 常に御助けの神元
やれ 信心高カユシかマシ

118◎七四一 頤之剥

六馬交馳 男女得意

此卦や シジ高さる卦

大道又や市近くに家墓の風水アルか 又や鳴い物 音物の シヂサル所に
風水のあるか 心のしまりのねんあれ 常に望み事のハテーねらん 御神御元
祖の 御シジの強さ いみせーくと 差支やねーんあしが 今度中や 望み事
マギク ムッチャイ 高登いしやならん
やしが 常に御念じの心のあくと 願事や叶はいん

119◎七四二 頤之損

前程早判 榮貴有時

此卦や 自分の先程ハカユル卦

自分の行先ちや 早く判りわどやる 例れ 一時の財物と 案に目暗らで
富貴望ウエキでウルしかた ナシバ ナサラン事やねんしが 一事からや 損じて子
孫迄での キジトなゆる ちむえ やれ 思み直ち ドウのイチマチ チャア
なゆんり考て 方針立ていどんセ 一月二月や 申酉の方から 望事叶はて喜
びんある ちむい 事情に肝狂りて 晴らかでやならん 今のウチに 後々の
イチマチ 方法考へゆしがまし

120◎七四三 頤之賁

早朝起程 女服何事

此卦や 男の女ナイ 女の男ナイ 肝の苦勞取ゆるシカタ 家内のウサミ方ん

世間^{マジワイ}交の道ん 財物銭金取イケーの道ん 肝苦勞のツウサル節ドウ 今年や
子孫の道に障い事のあて 塚所のあれ 光り物^ス 諸イチムシに 知ラシノアシ
ガ ウズミやねらん 心発達の氣ムッチ 物事ダチ アキテンアレ 当タテ悔
やでん 益やねらん
男ん女ん 心のダチ アカンアレー ならんどう

121◎七五一 蠱之大畜

三日之程 一日行之

此卦や 事の早まゆる卦

肝急ぎサネならん 事急ぎサネならん 物事兼ねての思みいやか 早まて肝急
ヂスル シカタ 例れ 三日ガカイシ 行ツル道ん 一日ウテ 行かねならん
七八月から 後々の思みいやたシ 二・三月にナサネならん やれ物事ウクリサ
ングト 前以テ運ばねならん 五六月や思い叶はいん

122◎七五二 蠱之良

天心日光 正照万里

此卦や 陰徳の光り輝つる卦

情き人 情けの深さあて 常に人かなさ さる徳のみぐて 今年や 物事叶は
らんくとやねらん 二方三方の元祖道ん 筋道正だち 喜ぶる卦やれ 五月十
月の節に 子孫の上に心配事のあてん 陰徳のカヂに障い事ハンチ 安々と通
いん

123◎七五三 蠱之蒙

一渡長江 非浅非深

此卦や 天徳の御助け受けゆる卦

クリマデ 下かヂ 心配事^{シワ}にあたゆしが ウス心配^{シワ}くぬ心配 心安々と ハン
チ^{トウ}通^{チカ}ふて来る たとい 海河渡りば 深くんねらん 浅くんねらん 例れ 浮

世んクノアンベ 家内事世間事 総て心安々と通て いつん之や 天徳の御助け 御神御元祖の御かチミの強さくと 心配やねらん 七月八月や 南方から財物の喜び取ゆん

124◎七六一 蒙之損

一人之害 及於万人

此卦や 狂り者の卦

世間サワカチ ウマン人までん迷惑卦けて 為めやならん

ウレ 元祖世にボヲチリ 狂り者の 神事ヌーが 元祖事ヌーガんりち 一月九月の年の御祭りに 念のネらん ボヲチリ事サルみぐい 今の世にん 一人の為に 神事粗素にするたといやれ 年の祭り遅りてやならん

125◎七六二 蒙之剥

隨時応物 到处有靈

此卦や 時物に隨て 世渡いする卦

昔や昔 ^{ナマ}今やなま 世や世に従い ズクヤズクに従て 時に従い物に随いさんあれ 目的や叶はらん やれ世に従テ ズクに従いどんセー 財物 錢金の道から儲ケズク マデン 思ひ叶はて マーの島に育ちん 成功や 間違ねらん

126◎七六三 蒙之蠱

飛龍在天 利見大人

此卦や 龍の天に登ゆる卦

成功立身の言ふに及ばん 四方八方思ひ叶はて 喜ぶる上上の 運氣やくと 例令 邪魔者の居てん チャーんシウーサン 自然と思事や叶はて 諸人から拜かまりる たとい ウレ 神クリイ 嫡子マシ立ての 御印シやれ 後々までん 念に念入りて 御念じあきゆしかまし

127◎八一― 泰之升

万里長空 日月朗々

此卦や 物事サやかな卦

心サやかに 内外遠さ近さマデンサやかなて 御神御元祖の道ん サやかに
通らん事やねらん

例れ 万里の空に 雲の鑄一ちんねらん 人間一家の事ん ヌヌ鑄ん 付ん
あくど 七月八月や 思事叶はて 十霜月や 財物の喜びのあん

128◎八一二 泰之明夷

入火不傷 入水不溺(入溺水不)

此卦や 難に逢てん 念ヂケーやねらん

例れ 水に入っちんウブリらん 火に入っちん焼きらん イカナル心配事に
ハイかかてん 念ヂケーやねらんためし 運氣や強さくと 五・六月にや 障い
事除きて思ふ事や叶はて 冬の節にや 東南から喜びの入ゆん
やしが嫁取婿取や 破りの卦やて 中に邪魔者の居しか 此縁談や 可成破
りゆかまし 後々の誇ウテル福や取ゆる

129◎八一三 泰之臨

凶方宣避 吉方宣随

此卦や 方角定めゆる卦

今度や 方位の善シ悪シに依て 事業の出来不出来の 出ぢゆる年どう 思
む事願事や素より 取譜晋事やてん 方位誤りてからや 目の前に災難引受け
ゆる運氣やれ 七・八月の財物の取イケ慎しで 物事方角誤りらんと しわど
やる 三月と十二月や 目上のイ言葉に随て 物事ナスシがマシ

130◎八二一 臨之師

乘龍乘虎 変化無雙

此卦や 軍師の卦

例れ 軍の大將 数多の兵引ち連れて 戦に立ち出じゆるタトイやしが 勝ち
負けや 誠真心からの 御念じにかかゆるチムエ 人間一家の事ん くのあん
べーやれ 今年の事や スベテ マギ事にハイかかゆる 運数やくと 御念
じ高めて 勝ち軍さしわとやる 五・六月や勝ち負けのアル月どう

131◎八二二 臨之坤

三陽同氣 万物生榮

此卦や 萬物榮ゆる卦

今年や ウヌ方クヌ方から ウシ立てマシ立ての強さ 根ヒジ堅めし 枝葉ま
でん榮い取ゆる 時節のみぐて 内外榮い取ゆる 喜バシイ年どう スース障
いヒチン ねらん 子孫の繁昌 財物錢金の喜び取ゆん
やしが 運気の強さくとんりち ボウチリ事や 物クメーキ忘れて 由断しから
や 善シ悪シ共に 出じゆる年どう

132◎八二三 臨之泰

九秋霜降 落葉帰根

此卦や 物事元に帰ゆる卦

例れ 月日やアガテ入るか如く 花や咲ちからや散りるためし 草木の葉ん秋
と来りば落てて元に帰ゆる しかた 失なたる物や求め 旅に居しや 帰郷す
る かたち

今年や 十・霜月に財物求め 八月霜月や 宝ダツル喜びのある年やしが 物
事元に帰る年やくと 三月と十二月に 山川嶽々の願立忘しらんぐと 身体ガ
フウ 御願かきりわどやる

133◎八三一 明夷之謙

往釣于水 金鱗日至

此卦や 龍神山神の御助け受けゆる卦

今年や 龍神山神の祭り営むる年やれ 事遅りさんぐと 潮河に世終たる 元祖の孝事トトネテ 肝カルサ願いどんせ ウノ徳のみぐて 四・五月にや 財物の喜び 冬の節にや 物事叶はて 七月八月や 思ゆらん喜び事の 重ネ重ネあるくとやれ 山川の祭りん遅りてやならん

134◎八三二 明夷之泰

入山修道 本非正道

此卦や 所ガラ場所カラの悪ルサル卦

例れ 商ネスラバヤ市に出じ 百姓や畑に出じ 海人や海に 場所柄ユタサリ わど物事や叶はゆる事やしが 所柄の業とあたらん 又今の業や 天職やあらん あくと 改めゆしかまし 五月霜月や 人に知らさんカクシ事の現はりゆる 節やくと 慎みとりわどやる 財物や四五月に栄いん

135◎八三三 明夷之復

静中滋味 最不尋常

此卦や 波風の後に 静かなゆる卦

例れ クンナゲー ウテ危や ハイシテテ 家内の内外 波風静かに 心安々とくらする たとい 禍の根ヒジン 切っちあしに付て 今度からや 福德の集マユル みぐい やしが余り静か過ぎてからや ウンビンなて 却て 家内破りの本やくと 愚頓なてやならんど

136◎八四一 復之坤

碌々浮生 不知安分

此卦や 安楽な卦

大楽な生れやて ^{ムス}物シワやねらん 誠に善イ生りどやる
やしが楽や苦しみの種ど 蒔ツるタトイやれ 成すことスルクトのねらん 遊で
クラサ 時や蒔かん種子や みいらんどう
求めたる事のねん あしに付て 分分の働きや なしわどやる
六月節や 外に出じいどんせ 十一月十二月にや 上の引立て受けて 立身の
道 開つる ちむいやれ 出立ツしがまし

137◎八四二 復之〔明〕臨

採薪飲水 楽在其中

此卦や 願事の後のねらん ビイのねらん卦
例れ 仕事や初めたしが チビのクタイのねんあれ 善し悪しやわからん 物
事チビマデ トジミランあれ 功のネらんためし 願望やかきて 半ばから肝
タゲーの出て ウヌママ シテテあれ 思む事や叶はらんあくど 掛けてある
願望や ビイのあて 仕掛けてる仕業や チビマデ トヂミリ わとやんどう

138◎八四三 復之明夷

人有旧縁 偶来助力

此卦や 陰徳のみぐて 人の助け受けゆる卦
元祖世ウテ 施しの徳人 助けシみそうちやる徳のみぐて 今年や 助けらッ
たる人の子孫にミグイ合ふて 助けられる たとい 誠に不思議なものやれ
元祖の行ね 忘らんぐと 人々相助けていけば 四五月や 喜び求め 冬の
節にや 財物銭金の泉口 かちみて喜ふん

139◎八五一 升之泰

蟲食衆心 事不安静

此卦や ^{スバムシ} 側虫に害さるる卦
今年中や 他人にザンさるる卦やくと ^{ドシマジワイ} 友交 ユクユク注意さんあれ 四五月

や物事障い事のウフサ ^{シケン}世間ズクや 破り人の心や悪化しウクト 育ちグリサ
するかタチ 思みゆらん事引受けて 苦勞さねならん 人の上ウレーマサ思む
ゆる事のあくど たしなみ第一ど

140 ◎八五二 升之謙

一入山門 人不知仙

此卦や ^{チトメニ}官人の位^ヒイ退ツル卦

並々の人々や 業口シテテ 山グマイルしかた 春に喜び 秋に悲しむる運
気やて 職口退かねならんあしが ある限りの心配事引受 辛勞苦勞する年や
くと たしなみ第一ど 一人身になって山グマイするたといやしが 宗教家んでや
差支やねらん

141◎八五三 升之坎

入山橋虎 生死離別(弁)

此卦や ハテ事にハイかかて イララン目に入ユル卦

ヌギテ ヌギララン 止メテ 止メララン事ニ ハイかかテ ウレ落て付ち

肝要どう ^{イジ}勇氣や 命の親どう 例れ 刃物ムッチ虎の穴に入ユル タトイ

虎殺サン アレ 我身損じゆる みじわやれ あわてらんぐと 落て付ち い

ぢ引かんぐと虎取りわどやんど くのちはに当て いぢ引ちからや 事損じす

れ 落て付肝要ど

142◎八六一 師之節

夕陽帰客 歩々忙々

此卦や 物事急かねならん卦

例れ 海山行ぢ 夜入りて急ぢ帰ゆる ちむえ 急ぢ急からん肝ナギチする

しかた 今年の事や総てクヌアンバーやくと 肝ナギチさんぐとしわどやる

今度や 両方から危の向かトウクト 春三月の内に ^{グワンモ}寿の願望 カキイドンセ

御助けの御光り 拝まりんど

143◎八六二 師之比

一聲砲響 禽獸皆驚

此卦や 地荒屋敷荒の卦

例れ 鉄砲 打^{パラミカ}ちやくと飛鳥の驚つるよう 物音のあるかタチやれ 急ち悪風
払し 地神の祭りあざらんあれ 屋敷荒の為に 思事や叶はらん 又此屋
敷や 昔からシジ高さる屋敷やくと 二・六月の祭りウクリらんど 東り表てに
屋敷神祭ゆしかまし

144◎八六三 師之升

東風淡蕩 春花富貴

此卦や 嫁取婿取の卦

春の花盛り 按とウグイスの結ビ取ゆる喜びのある年ど 福祿重ねて 財物銭
金ん静かに求めアかさ 大道通ゆる心 物事心のままに叶はて喜び重ねゆん
東之方から喜びの便のあん

※ 卦線の（ ）〔 〕の字は「土亭行年法」による。